



TOTAL HEALTH PROGRAM

トータルヘルスプログラムのコンセプト
スターターキットの使用説明

(ソフィアオリジナル抜き・ソフィアオリジナル抜き リゾホーム付き)

- 1 トータルヘルスプログラム開発者挨拶
- 2 トータルヘルスプログラム受診にあたり知っておいてもらいたいこと
トータルヘルスプログラムがターゲットとする「歯周病」について
 - 1) ギネスブックに載る世界一の感染症「歯周病」
 - 2) 死をも、もたらす「沈黙の病」
 - 3) 歯周病菌はどこから来たのか？
 - 4) 「家庭内感染」というリスク
 - 5) 歯周病は治らない？「トータルヘルスプログラム」で全身の健康へ
 - 6) 短期間に集中して治療する画期的な治療法
 - 7) キーワードは「THP ウォーター：機能水」
 - 8) さらなる進化を求めて
 - 9) 「トータルヘルスプログラム」の画期的な特長
 - 10) 「トータルヘルスプログラム」の施術ステップ
 - 11) 治療における3つのポイント
 - 12) 熟練の「スケーリング・ルートプレーニング」(SRP)
 - 13) Probiotics (プロバイオティクス) をさらに超越し、
Biogenics (バイオジェニクス) により口腔の健康から全身の健康へ
 - 14) 「トータルヘルスプログラム」がもたらす効果 (エビデンスについて)
 - 15) 歯周外科処置「フラップ」をしない治療
 - 16) 再評価とメンテナンス
 - 17) 「トータルヘルスプログラム」への反響
- ー トータルヘルスプログラム スターターキット各ツールの使用説明 ー
- 3 THP 3DS paste によるブラッシング方法
- 4 3DS トレーの使用法
- 5 スターターキットに入っている各ツール説明書
 - 1) THP 3DS paste
 - 2) 乳酸菌モコモコ
 - 3) THP 術前・術後歯ブラシ
 - 4) 舌クリーナー
- 6 最後に 私たちの目標は「治療ゼロの歯科医院」

口腔の健康から、全身の健康へ

ここでしか受けられない治療があります

こんにちは、本プログラム開発者の歯科医師 辻村 傑と申します。

この度は、トータルヘルスプログラムの施術をご決断いただき、ありがとうございます。

現在の日本では、歯周病は加齢現象の一つとして考えられ、年齢を重ねるとともに歯肉は退縮し、歯はグラつき、次第に抜け落ちていくことが自然現象のように受け入れられてしまっています。

さらに、厚生労働省が実施している日本歯科実態調査では、国民平均で60歳を過ぎる頃から毎年1本ずつの歯を失っている（生涯で20本以上の歯を失ってしまっています）こともデータとして提示されています。

虫歯に関しても、歯が弱いから、遺伝だから仕方ない…と、ほとんどの患者さんが諦めて治療中心の歯科受診を繰り返してしまっています。歯周病、虫歯、知覚過敏、口臭、歯の黄ばみ、全て加齢現象??そんなことはあり得ません。なぜなら、皆さんご存知のように、歯科疾患のほとんどは細菌による感染症だからです。

しかし、この感染源を特定する検査の存在が、日本の保険歯科医療には欠如してしまっています。さらに、戦前、戦後の旧態然とした療法のまま、目の前にある症状に対し、繰り返しの対症療法が行われるために、現状を打破できないでいると言えます。

本プログラムでは、世界中の英知を結集し、多くの研究者、優れた臨床家との共同開発として完成しました。根本的な疾患の原因にアプローチし、繰り返しの治療を極力低減することを目的に行われ「口腔の健康から全身の健康へ」と寄与できる施術内容となっています。

2020年7月現在、北は北海道～南は九州まで55施設、海外に3施設の認定歯科医院があります。このトータルヘルスプログラム認定歯科医院は、国民の真の健康を追求するために、一年半の教育期間を修了し、認定歯科衛生士による高い治療レベルと管理体制を整えた、各地域を代表する優秀な歯科医院で構成されています。

短期間で、口腔内環境を改善、実感できるプログラムとなりますが、それは、担当の歯科衛生士の努力と技術だけでは達成できません。

患者さんご自身にも、積極的に本プログラムを活用し、最大限の効果を得るようにして欲しいと願っています。完了後も、健康な口腔内環境の維持、増進のために、あなたの担当歯科衛生士がしっかりフォローしてまいりますので、安心して施術をお受けください。

T-method Institute

代表 辻村 傑



2 トータルヘルスプログラム受診にあたり 知っておいてもらいたいこと

Things you need to know before THP consultation

トータルヘルスプログラムがターゲットとする「歯周病」について *- THP's target "Periodontal disease" -*

1) ギネスブックに載る世界一の感染症「歯周病」

- 'Periodontal disease' Listed on Guinness Book of World Records as #1 disease affecting mankind -

「繰り返しの治療をなくす」、さらには「一生、歯の治療をしなくてもいい社会をつくる」。これが THP を施術する歯科医院全体がめざす究極のゴールです。

口の中の 2 大疾患といえば「虫歯」と「歯周病」ですが、どちらも「細菌（バクテリア）」が主な原因です。したがって、この菌をうまくコントロールできさえすれば、繰り返しの発症も治療も防ぐことができるはずなのです。特に歯周病は、いわゆる歯周病菌を退治し、コントロールしない限り完治は望めません。

これから、みなさん知っているようで意外と知らない歯周病の謎、歯周病の怖さについてお話ししたいと思います。

みなさんは歯周病と聞いてどのようなイメージをお持ちでしょうか？「歯磨きのときに痛みを感じたり、出血したりする歯肉の病気」程度とされている方がほとんどではないでしょうか。もう少し知識をお持ちの方は「歯肉に膿が生じて、歯を失ってしまう危険性がある怖い病気」と認識されている方もいらっしゃるかもしれません。確かに症状としてはそのとおりですが、実は歯周病はみなさんが考えている以上に、とても恐ろしい病気なのです。

何が恐ろしいかと言うと、まずはその感染力です。歯周病は、HIV やエボラ出血熱などと同じ感染症の一種で、「人類史上最も感染者数の多い感染症」として、ギネスブック（ギネス・ワールド・レコーズ）に掲載されているほどです。さらに恐ろしいことに、歯周病は歯肉だけ、または口腔内だけの病気ではなく、全身の健康に影響を及ぼして様々な病気を引き起こし、最悪の場合は死をもたらすこともある、とても恐ろしい病気なのです。

こんなにも恐ろしく深刻な病気にもかかわらず、驚くことに歯周病は現代の歯科医療技術では、なかなか治せない病気とされてきました。ギネスブックに載るほど感染者数が多い歯周病は、実際、日本人の中高年の約 8 割が感染していると言われています。

1980 年代に入り、「歯周病は口の中の“歯周病菌”が原因である」ということ、そして「全身的疾患や環境因子（喫煙、不規則な食生活、過度なストレス、偏った食生活、歯磨きを怠ること、夜間の歯ぎしり日中の食いしばり、など）が大きく関与している」ということが次第に分ってきました。「歯垢や歯石がたくさんついている」「口の中がネバネバする」「口臭がある」「歯と歯の間に物が挟まる」「歯肉が赤く腫れている」「歯がグラグラする」

「歯を磨くと血が出る」「歯がしみる」「硬いものが噛めない」。こうした症状はすべて歯周病のサインとして現れます。

歯周病菌は歯の周りの組織だけではなく、心臓病や動脈硬化、肺炎といった全身疾患の発症、低体重児出産の原因、糖尿病の悪化など、さまざまな疾病を誘発するということが、最近の研究によって明らかになってきました。歯周病菌が歯と歯肉の間、いわゆる「歯周ポケット」に侵入すると、歯周病菌が血管の中に入り込んで全身を巡り、さまざまな全身疾患を引き起こす可能性が高まるのです。

例えば、血液が心臓の狭い穴を高流速、高圧差で通過するとその時血液の渦流が生ずる。その渦流によって心内膜や弁膜の内皮面に血小板とフィブリンからなる血栓が形成され、これに血液中に侵入した細菌が付着して菌が増殖し、ついには弁破壊に進展し細菌性心内膜炎となる。

また、歯周病菌が心臓の周りにある血管の壁にとりついて動脈が硬くなる、あるいは狭くなることによって「動脈硬化」が発生します。すると血液の流れが少なくなり、最悪の場合は、血管が詰まり、破裂してしまう狭心症や心筋梗塞といった致命的な病気を引き起こすリスクが高まるのです。また、「糖尿病」と歯周病菌も密接に関係しているということが分かってきました。「歯周病治療を行うと血糖値が改善する」「血糖値が上がると歯周病が悪化する」という相関関係にあるのです。これには歯肉の炎症で生じる「サイトカイン」という物質が関与していると考えられています。さらには、歯周病はお母さんのお腹の中にいる赤ちゃんにまで、大きく影響するということが分かってきました。「サイトカイン」が子宮収縮を促すことによって「早産」や「胎児の成長不足」を招いてしまったり、「低体重出産」の原因となる可能性があるのです。

2) 死をも、もたらす「沈黙の病」

- 'Silent disease' the risk of Death -

日本人の死因の第4位は「肺炎」です。そしてその多くが「誤嚥性肺炎」なのですが、この誤嚥性肺炎は、単に食べ物や飲み物が誤って肺に入ってしまうことではありません。誤嚥性肺炎は、実は胃液や唾液とともに歯周病菌が気管や肺に流れ込んでしまうことが主な原因なのです。

このように歯周病菌は、全身をむしばみ、死に直結するさまざまな怖い病気の原因菌でもあるのです。これ以上はさらに複雑で専門的な分野にまで広がってしまいましたが、現代病において大きな問題にもなっている「ガン」「脳梗塞」「認知症」といった病気においても、歯周病菌が大きく関与しているということが、さまざまな研究によって明らかになってきているのです。

つまり、口の中だけのささいな病気と思われがちな「歯周病」は、悪魔のように人の命

にしのび寄る恐ろしい病気なのです。たかだが口の中で生じたちょっとした不調が、健康面において取り返しのつかない事態を誘発してしまう病気であるということを、まずはしっかり認識してほしいと思います。年をとってから、心臓疾患や動脈硬化などで亡くなった方の中には、その病気の原因が実は歯周病菌だった、という可能性は大いにあるのです。

その意味でも今回トータルヘルスプログラムの施述をご決断いただいたことで、全身の健康へと導けるように、私どもも全力で施術にあたらせて頂きます。

一生のうち、亡くなるまでの間にまったく歯周病に感染しないという人もいます。歯磨きをしないのに虫歯にも歯周病にもならない、という人は確かに存在するのです。北欧の場合はというと、虫歯にも歯周病にもならないという人の割合はかなり高く、6～7割という高い割合で存在します。日本ではそのような人はごくわずかで、約8割を超える国民が皆歯周病に感染していると言われています。

歯周病菌は、最初は深刻な症状を引き起こさなくても、年齢とともに次第に頭角を現し、40歳、50歳、60歳と年齢を重ねるにつれて、口臭、歯磨き時の出血、体が疲れたときに少し歯が浮く、など何かしらの症状が出始めてきます。

まったく痛くもかゆくもない状態であったとしても、歯周病菌は知らず知らずのうちに人の体をむしばんでいきます。「痛い」「血が出る」となったときは、もうかなり進行してしまっているのです。「沈黙の病」と呼ばれるのはそのためです。また歯周病菌は歯の骨を溶かしてしまいます。歯周病菌がいると、人間の体はその毒素から自分を守らなければいけないという防衛反応が働きます。そこで白血球が増えて、その反応として「破骨細胞」という骨を溶かしてしまう細胞が骨を溶かし始めていくためです。骨を溶かすというと一見とても痛そうですが、実はなかなか痛みは発生しません。

統計によると日本人の場合、60歳から平均1本ずつ歯がなくなってしまう、80歳に向けて一気に歯が減って行ってしまいます。歯周病菌の影響で自覚症状も痛みもなく歯が失われていってしまうことが多いので、この原因菌の活動をどこかのタイミングで断ち切っておかないと、確実に歯が失われて行ってしまいます。



3) 歯周病菌はどこから来たのか？

- Where does the periodontal disease bacteria come from ? -

どうすれば歯周病菌に感染しにくいのか。あるいは感染しやすいのか。それは免疫の状況によります。先ほども触れたように、歯周病菌がいても発症しないという方々は、免疫力が高かったり、いろいろな意味で健康であったり、運動をしていたりします。逆に、骨粗しょう症になっている場合、歯周病は進行しやすいのです。

生まれたばかりの赤ちゃんの口の中に歯周病菌は存在しません。どこかのタイミングで感染するのです。では一体、歯周病菌はどこからやって来るのでしょうか。実は、「歯周病菌はどこから来たのか？」ということについて、研究者の間でもまだ明らかになっておらず、大きな謎のひとつなのです。そもそも一人の人間の体には約 80 億もの菌がいると言われています。また口の中だけでも 500 種類の菌が生息していると言われていて、それらすべての菌については、まだまだ謎だらけです。

虫歯に関係している「ミュータンス菌」という菌も、生まれたばかりの赤ちゃんの口の中にはまったく存在しておらず、また歯が出る前にミュータンス菌が口の中に入ったとしても、菌は定着しません。そのため虫歯は感染とは呼ばれないのですが、歯が出てきて 2 歳 7 ヶ月ころまでに感染すると、その人の口腔内にミュータンス菌が定着し、口腔内常在菌のひとつとなり、つまり生涯虫歯のリスクにさらされる、ということが分かっています。

3 歳未満での虫歯菌の感染は、「口移しの行為」「親が舐めたスプーンで離乳食をあげる」「親が使ったコップで飲む」「歯ブラシ」などから感染することが考えられます。したがって、幼稚園や小学校くらいのお子さんであっても、口の中に歯周病菌がいる子がいます。

18 歳になると口の中に歯周病菌が存在する人の割合が急に増えるというレポートもありますが、なぜ 18 歳なのかはいまだ説明されていません。子どものころに感染した歯周病菌が歯周ポケットなどに潜んでいて、それが爆発的に増殖するのが 18 歳の頃なのかもしれません。18 歳頃になると新陳代謝が激しいので、歯周ポケットの中でも常に新しい組織が形成されてきます。成人になるに従って、細胞ができる周期が遅くなってくるので、歯周病菌が少し優位になってくるのかもしれません。

虫歯と歯周病菌は根本的に質が違いますが、感染時期は実は一緒で、虫歯は早い時期から発症するのに対し、歯周病は虫歯よりも発症するのが遅いのではないかと、というのが現在の解釈です。そのため、歯周病の症状がないお子さんや若い方であっても、どこかのタイミングで一度検査をして歯周病菌の有無を確認し、もし歯周病菌が発見されたら、でき

るだけ早急に口腔内の細菌叢を悪玉菌の少ない状態にリセットしてあげることが必要です。症状が出てから対処するのではなく、症状が出る前に細菌レベルでコントロールした方が、その後の予防の効果も高く、結果として治療をしなくても済むのです。

4) 「家庭内感染」というリスク

- *'The risk of 'Domestic Infection'* -

歯周病は子どもよりも大人に多い病気ですが、たまに中学生くらいの方が、簡易的な検査を受けたいと来院されることもあります。親が歯周病を患っていると、必ずといっていいほど子どもにも感染してしまっていることが分かってきたため、ある時期から、子どもの歯周病検査も行うようになりました。つまり家庭内感染するケースが非常に多いのです。たとえばカンジダアルビカンス（カビ菌）に対して、日本歯周病学会が「この菌は歯周病とは関係ありません」と指定している菌であったとしても、口腔内環境を変えるという視点で考えたとき、「この菌はいないほうがいい」と思われる菌も判定して処置の対象にしています。

5) 歯周病は治らない？「トータルヘルスプログラム」で全身の健康へ

- *'Incurable?' Total Health Program can answer -*

通常、患者さんが歯科医院へ行くと、「歯周病ですね。歯周病は一度患うと治らないので、歯磨きをきちんとしてこれ以上悪くならないように気をつけてください」と言われてしまう、といった話をよく聞きます。それが一般的な歯科医院の認識であって、決して手を抜いているわけではないと思います。そういう意味では、私たちトータルヘルスプログラムを施術する歯科医院が少々変わったスタイルの医院なのかもしれません。

よく他の歯科医院の先生から「なぜそこまでこだわってやるのですか」「なぜ保険で行わずに自由診療でやるのですか」と聞かれます。日本は保険制度というシステムをベースにした歯科医療を中心に動いているので、制度から外れたことをすると、なかなか理解されないのだと思います。

一般の歯科医師の方が「残念ですが治らないですね、生涯歯周病とうまく付き合っていく必要がありますよ」とおっしゃるのと同様に、歯周病学会なども「定期的に治療しましょう」と提唱しています。これは「サポータティブペリオセラピー（SPT）」という考え方なのですが、「歯周病の“進行を遅らせるようにサポート、支援”しましょう」という管理の仕方なのです。「歯周病が治らない人たちを、継続的にフォローアップしていきましょう」というわけです。そのため、日本では、歯周病に罹ってしまったら定期的に歯科医院に行って、場合によってはカリカリと歯周ポケットを刃物を用い掃除してもらいま

しょう、という治療法がベースになってしまっているのです。

また「しっかり歯磨きを頑張って、歯磨きで歯周病をコントロールしましょう」と言われても、毎回歯磨きに長い時間をかけられる人は少ないでしょう。私たち歯科医療従事者でさえ、せいぜい1回5分程度です。北欧の人たちは、国民平均で1日0.9回程度しか磨いてないのに、それでも虫歯と歯周病はきちんとコントロールできているのですから、歯磨きだけで歯周病の進行を防ぎましょう、という考えかたは少々ナンセンスです。

私たちはトータルヘルスプログラムグループとして長年にわたり、歯周病の研究を行ってきました。私たちよりも歯周病に関する知識を持っている先生は他にもたくさんいらっしゃいます。しかし、一番のネックはやはり「保険診療」なのです。日本の歯科医院は、なかなかこの枠から飛び出すことができません。保険を請求するためにはルールが決まっています、例えば初診のときに何か病名をつけないと保険でレントゲンが撮れません。普通に考えれば「病名をつけるために」レントゲンを撮るはずなのに、日本の場合は歯周病という病名がつかないと保険でレントゲンが撮れないのです。これは非常におかしなルールです。

このように、日本の保険制度においては、レントゲンひとつ取り上げても、現場への配慮が欠けるルールや制度がたくさん見受けられます。そういった壁やしがらみにとらわれず、患者さんのために第一に考えて、私たちはチームとして、歯周病、歯周病菌と闘い続けてきました。その形が、私たちが研究開発した世界的に類をみない根本的歯周病治療である「トータルヘルスプログラム」なのです。それでは、この「トータルヘルスプログラム」について、詳しくご紹介していきましょう。

6) 短期間に集中して治療する画期的な治療法

- Our breakthrough treatment 'Short-term-method' -

「繰り返しの治療をなくしたい」「歯周病菌、虫歯菌など口腔内の菌をコントロールしたい」。そう考えて研究を重ね、様々な文献を調べているとき、ふと目に止まったのが、ベルギーにあるカトリック大学の「フルマウス・ディスインフェクション」(以下FMD)という治療方法でした。歯周病は、「短期間にできるだけ口の中すべての歯を同時に治療することが重要だと、かねてから知っていたので、これは画期的だと思いました。

この「FMD」を分かりやすく説明すると「一括でまとめて口腔内全体をクリーニングする」という治療方法です。歯の治療は「上の前歯」「右上の奥歯」「左上の奥歯」「下の前歯」「右下の奥歯」「左下の奥歯」と、6つに小分けして治療にあたるのが一般的です。しかし「FMD」という治療方法は、「6分割せずにすべての歯を1回でまとめて治療した方が治りが良い」というのが基本的な考え方です。分割して治療していくと、次の治療の

際には、汚れを取っていない箇所から、汚れを取った箇所に菌が再感染してしまうのです。

この治療方法の効果は、従来の治療方法よりも、歯周ポケットが治療後に改善する率が非常に高く、また、「付着歯肉の獲得」といって、歯ときっちり付着している部分の歯肉の回復においても非常に優れていたのです。文献を読んだとき、これは画期的な治療法だと感じました。ただ、1回にすべての歯をまとめて処置しようとする、およそ6時間以上もかかってしまい、患者さんはその間ずっと口を開いていなければならないため、体力的な負担は大変なものになります。

また、「菌血症」といって菌が出血部位から血管の中に入ってしまう、炎症を引き起こすという問題もありました。歯周病菌をかき回してしまうような処置になるため、歯周ポケットの深い箇所を処置しようすると必ず出血をしてしまい、活発な菌が血管の中に入ってしまうのです。ちなみに「菌血症」になると、人間の体はその菌をやっつけようと発熱して、微熱が出てしまいます。「FMD」の治療方法を受けた翌日から翌々日にかけて、かなりの割合で患者さんは熱を出してしまうのです。そこで私は、なんとか「FMD」のメリットを取り入れて、デメリットの部分を補う方法はないものかと、研究を始めました。とくに「菌血症」をコントロールできたら、この治療方法は非常に画期的な歯周病治療法になると感じたのです。

当時は「クロロヘキシジン」という薬剤を使うことによって、菌が血管の中に入っても感染が広がらないようにしていたのですが、それでも結果的には菌に負けてしまい炎症が起きてしまいました。そこで、「クロロヘキシジン」の代わりに、何か別のものを使えばよいのではないかと考え、研究を続けました。そしてようやく辿りついたのが「THP ウォーターという機能水」だったのです。



7) キーワードは「THP ウォーター：機能水」

- Keyword 'THP water: Functional Water' -

トータルヘルスプログラムを受けられる際に担当の歯科衛生士が毎回使用させていただく「THP ウォーター」は別名「微酸性電解水」といって普通の飲用水を電気分解したもので、強い殺菌力を持っています。これを用いることで、「体に害を与えず、善玉菌は生かしたまま悪性の菌のみを退治できる」ということが分かったのです。従来の薬剤だと殺菌するまで1秒程度かかっていたので、その1秒の間に血管の中に菌が入り込んでしまいました。しかし「機能水」を使うと瞬時に殺菌できるため、より確実に菌の拡散を防ぐことができたのです。

しかし、それだけではまだ100%満足する結果は得られませんでした。当初採用した「機能水」は完璧ではなかったのです。「機能水」というのは、「次亜塩素酸」に含まれる「活性酸素」という成分が、殺菌の根源になっていますが、この「活性酸素」は実は人間の体にあまり良くない成分なのです。「脂質過酸化」といって、組織を破壊してしまう作用があります。そこで、この「活性酸素」を研究しようと、歯科大学の薬理学教室で、「機能水」と「活性酸素」との関係性の研究を始めました。

この研究で分かってきたことは、酸化に対抗させる「アスコルビン酸」という抗酸化剤を使えばいいということでした。「アスコルビン酸」が余剰な「活性酸素」を消去することをつきとめたのです。さらには、抗酸化剤は組織の治りを早くするという効果もあります。そこで、活性酸素を最大限消しながら、どこまで濃度を薄めても大丈夫かということ、地道に研究しました。一方で、機能水に含まれる「次亜塩素酸」自体も、適正な濃度で使わないと健康を害するため、的確な濃度にするための研究を行いました。

こうしてようやく、「FMD」のデメリットをなくし、良い結果だけを得られる理想の殺菌力を持つ「機能水」をつくることができたのです。

現在はこの機能水に、DNA複製でノーベル生理学、医学賞を受賞したアーサーコンバーグ博士の元でポリリン酸について研究されていた柴肇一（しばとしかず）博士のご協力を得て、中長鎖分割ポリリン酸の効果をプラスして、線維芽細胞の活性化、骨芽細胞の活性化など破壊された歯周組織の再生機能を与えるまでに向上させることができるようになりました。

この技術導入により、歯周病で傷付いた組織の修復から再生を促すことが可能となり、より治療成績を向上させることができるようになり進化しました。

この特許技術である組織再生成分を含んだ機能水が、これからトータルヘルスプログラムの施術に用いるTHPウォーターとなります。このTHPウォーターはトータルヘルスプログラムの認定を受けている医療期間でないと使用できない特別な機能水なのです。

口腔内細菌叢の維持と殺菌効果を与えたホームケア用の有害物質無添加のうがい用の洗口水を専用ボトルに入れて販売している医院もありますので、ご家族で日頃からマウスウォッシュとして活用されたい場合はフロントスタッフまでお声掛けください。

8) さらなる進化を求めて

- For more progress -

単に菌の全量を減らすのではなく、口の中にいる菌の組成を変える。つまり、悪い菌を極力やっつけていき、体にとっていい菌が増える環境を作ってあげることが重要だと気づいたのです。これが「細菌レベルで口腔内の菌の環境をコントロールする」という発想です。良い菌はそのままに、悪い菌だけ退治する。すなわち口腔内の菌の状態・環境を、歯周病が発症していない子どもの頃の口腔内に戻す＝リセットするというイメージです。

そこで、殺菌のベースとして「機能水」だけを使うのではなく、より確実に菌をコントロールするために、あるリスクを超えた人に関しては、抗菌薬を術前に投与したり、口の中に存在する菌の種類に応じて、対応方法を変えたりと、より安全でより確実に良い結果を出せるようアレンジを重ねていったのです。

例えば、菌がすごく多い方については、予防的に事前に抗生物質の前投与をし、まずはターゲットとなる菌を見極めてから、取り除いていきます。そして口の中に真菌と言われるカビの菌がいたら、THP 3DS Paste を使い、歯みがきのような方法で菌を取り除きます。もちろん、薬によって良い菌まで殺してしまうということはありません。良い菌を残した上で、悪い菌を取り除くというのが基本です。大きな病院などでは、いろいろな薬を飲むことによって、良い菌も悪い菌もすべてなくしてしまい、結果、後から入ってきた菌が爆発的に増えてしまうのです。

口腔内を無菌にすると菌のバランスが崩れてしまい、極端な話、「黒毛舌」といって、舌から黒い毛のようなものが出てきてしまうこともあります。そうすると味覚がなくなってしまうこともあるため、あくまでも「良い菌を残した上で、悪い菌だけを取り除く」ということが大切になるのです。

また、施術の過程で行う SRP（スケーリング・ルートプレーニング）という、歯周ポケットに入り込んだ歯石や炎症を起こした組織を専用の器具で掻き出す作業においても、THP 認定歯科衛生士が極限までスキルアップをはかっております。

これらの技術の集約により、ようやく再発の心配が非常に少ない、100%満足のいく結果が得られる「トータルヘルスプログラム」が完成したのです。

9) 「トータルヘルスプログラム」の画期的な特長

- The breakthrough features of THP -

こうして、繰り返しの治療をなくすための夢の歯科治療として「トータルヘルスプログラム」ができました。「トータルヘルスプログラム」の「トータル」には、基本コンセプトとして3つの意味が込められています。

まず第一に、ベースとなった治療法である「フルマウス・ディスインフェクション」(FMD)の「フルマウス」、つまり「口全体」という意味です。「トータルヘルスプログラム」は、歯周病治療に特化していますが、歯周病だけではなく虫歯菌を含めた「口腔内全体の菌の環境を整えるもの」であり、かつ「一度に口腔内のすべてを治療する」ことを実現するプログラムなのです。

第二に、「全身の健康」「トータルヘルスプロモーション」という意味です。つまり、口腔内の歯周病菌をコントロールすることにより、歯周病菌が原因となっている「心筋梗塞、動脈硬化、糖尿病といった全身疾患を防ぐ」ことを実現するプログラムだということ。

第三に、「生涯に渡って健康を維持する」ことを実現するプログラムだということ。「トータルヘルスプログラム」の「トータル」には、そんな3つの意味が込められているのです。

「口の中全体を健康にする」「歯周病のリスクをなくして生涯に渡る健康を維持する」「生涯に渡り2度と歯の治療をしなくても済む」。これらを「トータルヘルスプログラム」により実現を目指しています。これまでは歯周病は進行を遅らせることはできても、進行自体は止められないと考えられてきました。しかし、この「トータルヘルスプログラム」により、歯周病における根本的な治療が実現したのです。

従来の歯周病の治療は、歯に付着している歯石を除去、歯や歯根表面に付着している汚れの清掃などに加え、歯周病が進行すれば歯肉を切開し、歯根を露出させ、手術により汚染物質を取り除くフラップという外科的処置を施すのが一般的でした。従来の歯周病治療は、歯周病が元来菌の病気であるはずなのに、細菌学的な発想が取り入れられていなかったのです。一方、「トータルヘルスプログラム」は根本的な発想が大きく異なります。それは「細菌学をベースにした治療法」という点です。

歯周病は目に見えないレベルの「細菌」が引き起こす病気です。歯石の除去、歯根の表面の清掃、歯肉の切開・歯根の露出・手術といった従来の治療法では、歯周病が進行した口腔内に激し出血をともしない、治療している最中に、その出血部位から歯周病菌が体内へと侵入してしまうのです。これでは、表面的な治療が行なわれたとしても、最終的に再度、口腔内の細菌を発生させてしまいます。また、歯石を取り除く程度の処置では、微細な歯周病菌は口腔内に残ったままとなり、適度な温度と湿度を保った口腔内では、再度増幅が

進んでしまいます。

「トータルヘルスプログラム」では、まず口腔内の歯周病菌を細菌レベルで特定し、口腔内にどのようなリスクが存在するのかを徹底的に検査した上で、最適な治療方針を決定します。「口腔内から体内への感染を許さない」という考えを徹底させ、細菌レベルで歯周病菌を撃退する、従来の考え方と根本的からアプローチが異なる、先進的な治療法なのです。歯周病のリスクをまずはリセットし、その後、歯周病のリスク・可能性というレベルにおいて、二度と発症させない治療体系。それが「トータルヘルスプログラム」なのです。

従来行われていた外科的治療と「トータルヘルスプログラム」を比較した最大のメリット。それは、ほとんど痛みをとまわず、精神的肉体的な負担が少なく、患者さんに優しい治療であるということ。また、治療に要する期間と来院回数的大幅な縮小、つまり、従来週1回の来院で6ヵ月間かかっていた治療が、従来以上の効果を得ながら、平均6～8回の来院で終わることができる点です。

一度でもリスクを低減した口の中は、継続的にしっかりメンテナンスを受けていただくことで、特殊なレアケースをのぞき、虫歯や歯周病の再発といった不安や恐怖から開放されるのです。すなわちそれは、生涯に渡り自分の歯で生活できることを意味します。さらに特筆すべきは、生涯に渡って自分の歯を保ち続けるために、口腔内の状態を精密な検査データとして記録・保管し、全身の健康のリスクについても、状況に応じて管理していくことで、継続的に健康を管理していく点も、「トータルヘルスプログラム」の大きな特長でしょう。

ここで、「トータルヘルスプログラム」の特長をもう一度整理してみましょう。

◎「トータルヘルスプログラム」の「トータル」に込められた意味

- ・「口の中全体」を1度の治療で健康な状態にする。
- ・口腔内だけでなく「全身の健康」を守る。
- ・「生涯に渡って」健康を維持する。

◎「歯周病治療」において画期的である理由

- ・徹底した検査で歯周病菌の状態を調べ最良の治療計画を立てる。
- ・患者さん一人ひとりの状態に合わせたオーダーメイドの治療。
- ・THP ウォーターにより歯周病菌のコントロールを行う。
- ・分割ポリリン酸の効果により破壊された組織の再生効果が期待できる。

- ・ 菌の「量的コントロール」ではなく「質的コントロール」を実現。
- ・ 高度なスキルを持った THP 認定歯科衛生士による SRP。
- ・ 外科的治療（フラップ）をしないため、患者さんの身体的負担を軽減。
- ・ 短期集中型治療のため、治療期間と来院回数が大幅に縮小。

※従来週 1 回の来院で 6 ヶ月～ 1 年以上かかっていた治療が、従来以上の効果を得ながら平均 6～8 回の来院で終了。

- ・ 術後は予防メインテナンスを継続的に受けることで再発を防止することができる。

「トータルヘルスプログラム」は、研究に研究を重ね、さまざまな実験を重ねて生まれた、日本初の新しい治療プログラムなのです。

10) 「トータルヘルスプログラム」の施術ステップ

- Treatment process of THP -

ここで、「トータルヘルスプログラム」では、実際にどのようなステップで、どのような施術を行うのかを整理してみましょう。

「トータルヘルスプログラム」の基本的なステップは、(1) カウンセリング、(2) 検査、(3) 治療、(4) 再評価、(5) メインテナンス、という 5 段階です。もう少し詳しく説明しましょう。

- (1) カウンセリング：患者さんが抱えるトラブルや希望を伺う
- (2) 検査：患者さんの口腔内の状況を多角的に検査・診断し、現状のリスクを徹底的に把握
- (3) 治療：
 - ・ 歯周病菌の体内感染を防ぐための処置
 - ・ 高度なスキルを持つ歯科衛生士による歯垢・歯石の除去（SRP）
 - ・ 「組織再生機能水:THP ウォーター」を用いて歯周病菌を徹底的に除菌・溶菌
 - ・ 組織再生誘導
- (4) 再評価：術前・術後のデータを比較し、歯周病菌の悪玉菌優位の菌叢が善玉菌優位の菌叢に変化したかを確認
- (5) メインテナンス：繰り返し歯周病に感染しないよう定期的に細菌レベルで管理

11) 治療における3つのポイント

- Three essentials of the treatment -

「トータルヘルスプログラム」における「治療」のステップには、大別すると3つのポイントがあります。それは、

- ・「歯周病菌の体内感染を防ぐための処置」
- ・「高度なスキルを持つ歯科衛生士による歯垢・歯石の除去（SRP）」
- ・「機能水を用いて歯周病菌を徹底的に除菌・溶菌・組織再生誘導」

です。

まずは、歯周病菌の体内感染を防ぐための処置ですが、最も注意しなければならないのは、「トータルヘルスプログラム」の施術中に、菌が血管を通して体の中に入ってしまう菌血症を防ぐことです。それを避けるために機能水で菌の活動を止めるのです。また、事前に感染しにくい環境に整えてから処置するため、とくに、全身に感染する危険性がある悪玉菌が多く認められた場合は、感染予防のためより一層の安全面を考慮して、本格的な治療に入る前に、歯周病の原因菌に作用する内服薬の処方もお勧めします。例えば「トレポネーマデンティコーラ」という菌は、全身への感染力が非常に強力な菌のため、この菌が存在する場合は抗生物質を使う方が効果的です。

しかし、薬を使いたくないという患者さん多いらしいです。また、妊婦さんやお子さんには抗生物質を使うことはできません。そういう方々には、薬を使わず通常使用よりも高濃度の機能水だけでアプローチをします。薬を使わずに済むのであれば、それにこしたことはありません。薬を使えば使うだけ「耐性菌」といって、他の病気を患ったときにその薬が効かなくなってしまうこともあるからです。

12) 熟練の「スケーリング・ルートプレーニング」(SRP)

- Higher-skilled SRP -

「トータルヘルスプログラム」において、「機能水」による細菌叢のコントロールとともに、最も重要なのが「スケーリング・ルートプレーニング」(SRP)です。「SRP」とは、歯周ポケットに付着している歯垢（プラーク）や歯周病菌、感染した肉芽を丁寧に取り除く処置のことですが、「トータルヘルスプログラム」では、熟練のTHP認定歯科衛生士によって痛みをとまなわない「SRP」を行います。汚れている箇所をきれいに取り除くことができずに、少しでも汚れが残ってしまえば、そこから菌が増えていってしまいます。

機能水や抗生物質を使用すれば絶対に大丈夫というわけではないので、最大限の注意が必要となります。従来の歯周病の治療でも「SRP」という処置は行われてきました。しかし、「トータルヘルスプログラム」で行っている「SRP」は従来の施術とは異なります。

まず第一の違いは、「歯科衛生士の高度なスキル」。これまでは「SRP」における施術クオリティーの低さが、再発の原因のひとつにもなってきました。私たちのグループでは、とても高度なトレーニングを積んだTHP認定歯科衛生士が対応するため、確実に再発を防ぐ努力をします。このSRP技術は例えるなら、高度な技術を持った寿司職人のようなものです。おいしいお寿司屋さんに行くと、切られた刺身の味が違います。それは、ネタの良し悪し以上に、寿司職人の技術が違うからです。また、よく研がれた包丁で細胞を壊さず切るため、食べたときの感覚がベトツとしません。歯科衛生士も医療用の刃物を、シャープニングといって自らの手で研いで使用しているため、生体に対して害を及ぼすといった有害作用もなく、弱い力できれいに削り取ることができます。

また「SRP」では、毎回麻酔を使いながら行うのが一般的ですが、「トータルヘルスプログラム」では、熟練したスキルにより痛みをとまなうことがないので、基本的に麻酔を使うことはほとんどありません。実際に患者さんからは「他院ではではすごく痛かったけど、こちらはまったく痛くなかった」とおっしゃっていただけます。

第二の違いは、「SRP」の施術を「短期集中で行う」ことです。この短期集中というのが重要なポイントです。日本の保険制度では、1回で治療できる本数が7本までと決まっているので、28本の歯を4～5回に分けて治療していかないと終わりません。しかし「トータルヘルスプログラム」は自由診療ですので、それを短い期間で一気に行います。もちろん技術を要しますが、一気に歯数を抑えることが重要なのです。この点が、歯科衛生士の高度なスキルと同時に、従来のSRPとは大きく異なり、得られる結果・成果が明確に違うのです。

さらに「トータルヘルスプログラム」のSRPでは、歯周ポケットが深い部分だけでなく、すべての歯に対して施術を行います。歯周病の患部だけでなく、すべての歯周ポケットをきれいにすることが、「トータルヘルスプログラム」の大きな特長のひとつです。

一般の歯科医院では、「SRP」における保険のルール上、最初の段階で歯周ポケットを測り、1～2mmの部分には手を付けません。歯周ポケットの深さがある箇所だけ対応しますが、そういった処置では歯周病は完治しません。つまり「4～6mmあった歯周ポケットが、治療が終わったときに2mmになったため治りました」、あるいは「歯肉が腫れているのが治まりました」というのが、通常の評価の仕方です。そのため、歯周ポケットが深くな

い箇所にはアプローチしないのです。では、そこに歯周病菌は存在しないのかといえば、当然存在します。にもかかわらず、あくまで「歯周ポケットという指標」の中で終わってしまっており、限られた箇所だけに処置をしているだけなのです。菌は常に口のなかを巡っていて、4週間もすれば、菌の悪い状態は元に戻ってしまいます。そのため生涯に渡って延々と治療を繰り返すことになってしまうのです。

また一般的な歯科医院では、歯周ポケットだけをクリーニングしますが、「トータルヘルスプログラム」では舌の上もしっかりコントロールしていきます。例えば上の歯をきれいにしたとして、その菌はどこに行ったのかといえば、舌の上部に落ちてしまっている。舌の表面は絨毯のようになっていますから、その中に菌が入ってしまえば、当然元に戻ってしまいます。だからこそ、口腔内全体で処置していかなければならないのです。もし保険の適用範囲で対応しようとすれば、舌のクリーニングは行いません。ところが「トータルヘルスプログラム」では、舌のケアも当然きちんと行います。そうした点においても、従来の歯周病治療と「トータルヘルスプログラム」では、根本からコンセプトが違うのです。

13) Probiotics (プロバイオティクス) をさらに超越し、

Biogenics (バイोजェニクス) により口腔の健康から全身の健康へ

- Beyond probiotics, biogenics brings you a total general health from oral health -

近年、歯科医療に根付いてきたプロバイオティクス。プロバイオティクスは、生菌として摂取し、腸内フローラのバランスを改善し、健康に有利に働く細菌や酵母で、乳酸菌・ビフィズス菌・納豆菌・酪酸菌などの生菌やヨーグルトなどの発酵乳や乳酸飲料がこの範疇に入ります。「トータルヘルスプログラム」でも虫歯菌（ミュータンス菌）をコントロールできるとされる「プロデンティス」という善玉菌（ロイテリ菌）を使用してきました。単に薬を使って歯周病菌を殺そうという発想ではなく、善玉菌を使って悪玉菌を抑制していこうというアプローチです。「トータルヘルスプログラム」では、悪玉菌を減らしていきながら、善玉菌と悪玉菌とを戦わせていき口腔内の菌質を変え、口腔内の菌の組成を変えていく、つまりは悪い菌を減らして良い菌が定着しやすい環境を作っていくというものでした。しかしそれでは生きた菌を摂取した後、腸内で作用し機能するまでに時間を有することや、人それぞれ体内に保有する微生物が異なるため、カラダに「合う」「合わない」が存在していました。そこで、どんな人でも安心して摂取でき、口腔内細菌のみならず腸内細菌にもダイレクトに機能し、健康へと導けるものとして私が選んだのが ソフィアオリジナル「バイोजェニクス」です。

「バイोजェニクス（乳酸菌生産物質）」は、生きた乳酸菌そのものではなく、口腔内・腸内において善玉乳酸菌が日々産生している発酵代謝産生物（栄養素）です。「乳酸菌が腸内で作り出す栄養素」であるため、腸内で作用するのではなく体に直接働きかけるというまさにダイレクトに機能し、人それぞれが不足していて、個の生体に有用な微生物を増殖させる働きが期待されます。バイोजェニクスが直接口腔内・胃・腸に吸収されることにより、腸内フローラを直接サポート、善玉菌を増やす、悪玉菌を抑える、腸内の絨毛を保護、腸管免疫を活性化、他臓器に運ばれ全身をサポート、アディポネクチンの産生能を大幅に向上させるなどの効果が期待できるとされるまさに私たち人間のTOTAL HEALTH（カラダ全体の健康）にとって、大きな役割を担うという事実に辿り着いたのです。

そこで、毎日取り込む製品であれば可能な限り自然に近いカタチで日常的に摂取でき、かつ総合的に寄与する製品を追求した末に辿り着いたのがソフィアオリジナル「バイोजェニクス」です。数多くの種類が存在する乳酸菌の中から、人間の身体に有効な働きが確認できた10数種類の菌を厳選し、豆乳の培地の中で共棲させながら、発酵・熟成させる「共棲培地」をし、菌同士が刺激し合う中で、互いに成長・強化し、より強い菌を育てます。この発酵過程において、厳選された乳酸菌により生み出された“微量の栄養素群”この栄養素群こそが、「バイोजェニクス」です。無農薬・無化学肥料大豆を用いた共棲栽培から生まれた栄養素であるため、胃酸などの影響を受けずに、体内に吸収されます。オーガニックの大豆を原料としていることから、大豆に対する過剰なアレルギーをお持ちの方を除き、乳幼児からシニアの方まで幅広く活用いただける安心・安全な総合栄養素群です。

これまでの腸内フローラ改善に留まらない生体機能活性をもたらす特性を有していることが分かってきている「バイोजェニクス」は、プロバイオティクスの進化した形であり、生活習慣病予防や代替医療、健康維持、長寿のために活用されていくと私は考えています。

※ こちらのスターターキットに、ソフィアオリジナルは含まれておりません。

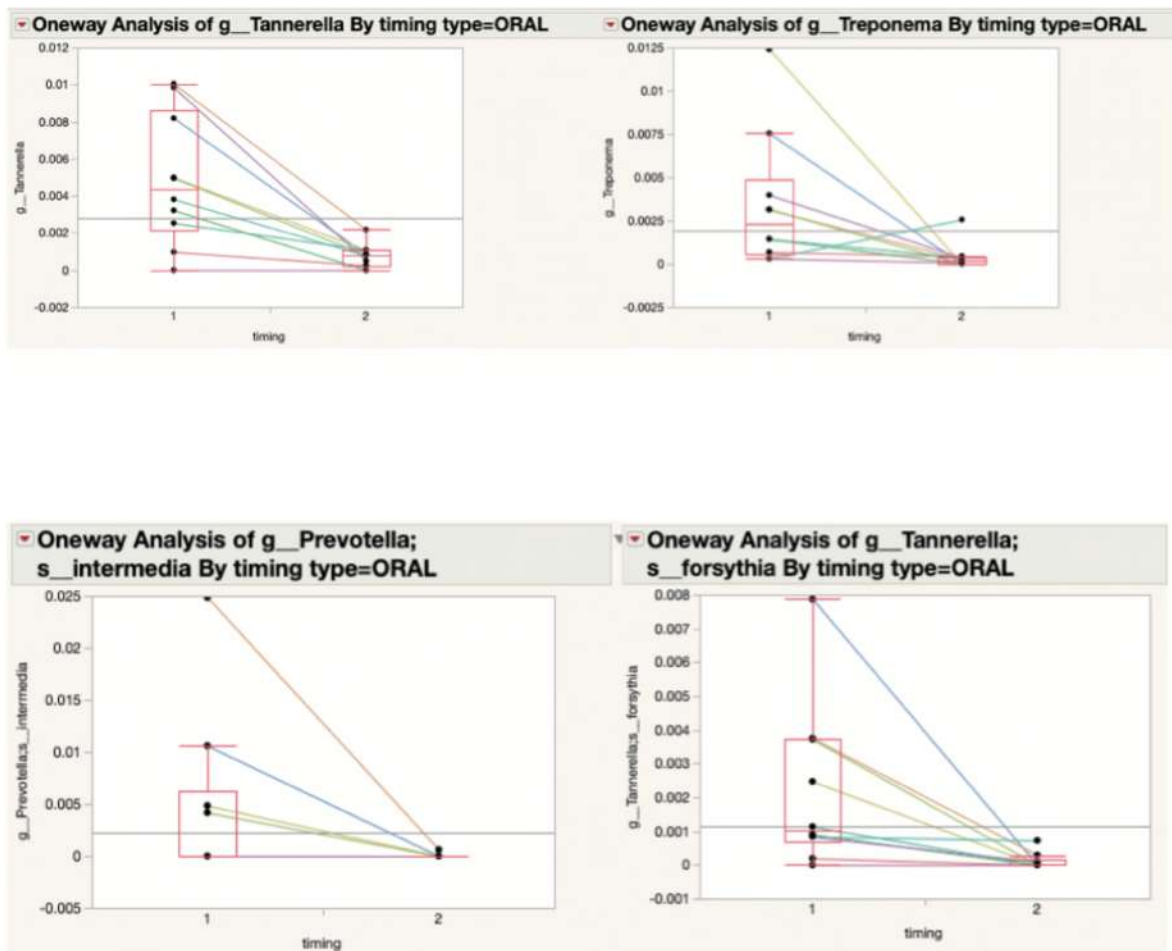


14) 「トータルヘルスプログラム」がもたらす効果（エビデンスについて）

- "Total health program" but the brought effect (about evidence) -

根本的なスタイルは変えず、日々進化をし続ける「トータルヘルスプログラム」では、現在認識されている、カリエス（むし歯）・ペリオ（歯周病）双方に影響を与えるとされるリスク菌に対してはほぼ全ての菌種に対して良好な結果を得ることが確認されています。

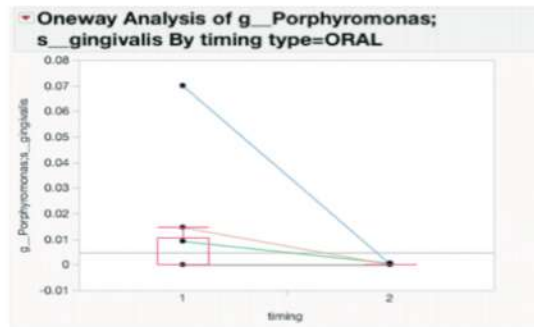
口腔内細菌叢へのアプローチの結果として



Prevotella intermedia

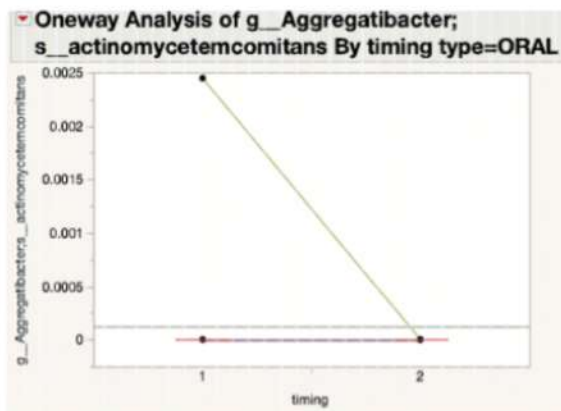
Tannerella forsythia

口腔内細菌叢へのアプローチの結果として

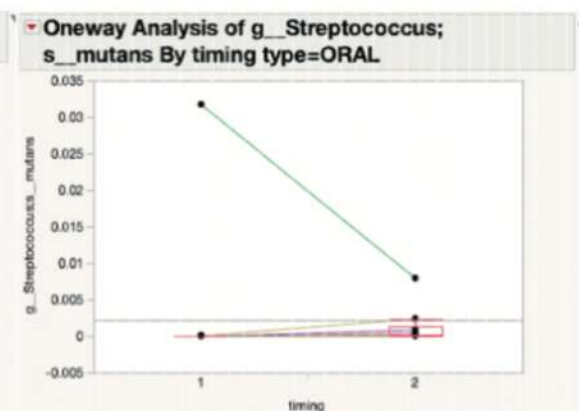


Porphyromonas gingivalis

(歯周病にもっとも悪い影響を及ぼす菌)

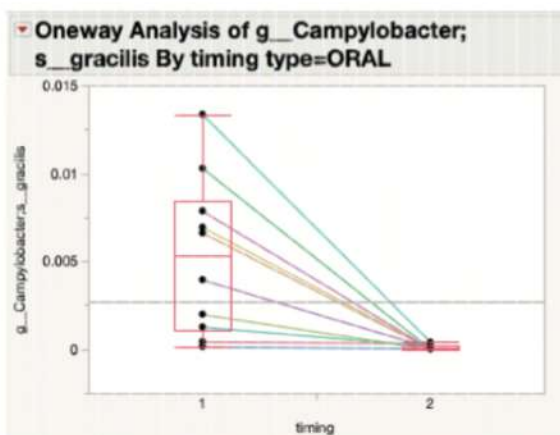


Aggregatibacter actinomycetemcomitans

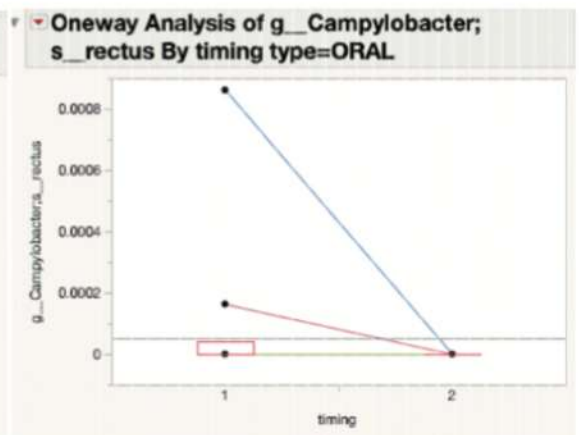


Streptococcus mutans

(虫歯にもっとも悪い影響を及ぼす菌)

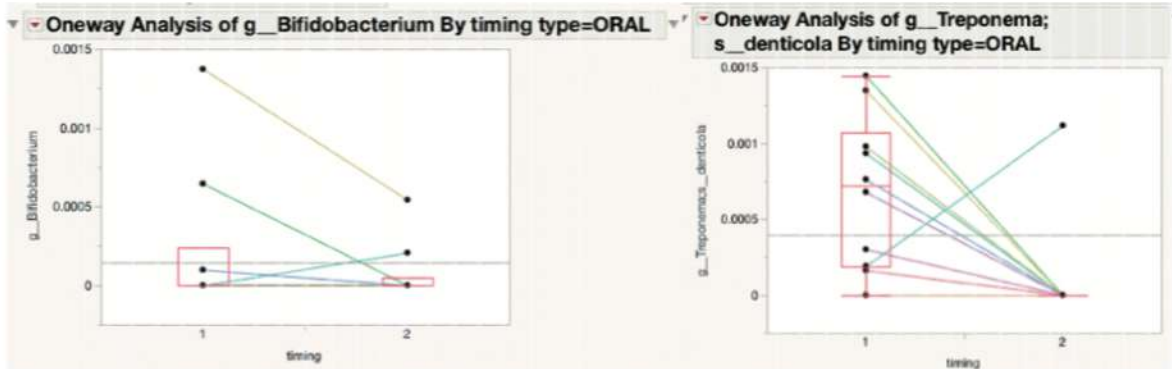


Campylobacter gracilis



Campylobacter rectus

口腔内細菌叢へのアプローチの結果として



Bifidobacterium

Treponema denticola

「トータルヘルスプログラム」の施術が終了してから良好な状態を維持していく為に、患者さんにはプロフェッショナルメンテナンスの継続をお願いし、私たち歯科医師・歯科衛生士は口腔細菌叢管理者となり共に歩んでいきます。

15) 歯周外科処置「フラップ」をしない治療

- Treatment without 'Gingival Flap Surgery' -

もう一つ、従来の歯周病治療と異なるポイントは「フラップ」（外科的処置）を一切行わないという点です。

「フラップ」とは、歯肉を切開して、歯周ポケット内に深くまで入り込んだ歯垢（プラーク）や歯石などを直視下で取り除き、もう一回縫いあわせるという外科的な処置のことですが、一般的な歯周病治療では、かなりの割合で「フラップ」を行います。

「フラップ」には、もちろんメリットもありますが、デメリットのほうが大きいと言えます。「フラップ」では、もともとあった歯肉を開いて縫い合わせるため、確かに歯周ポケットは浅くなりますが、歯の根が露出してしまい、隣の歯との間に大きな隙間ができてしまいます。それでも、歯科医院の評価としては、歯周ポケットが5mmだったのが2mmになったから健康ですと評価しますが、患者さんからすれば歯の間に隙間が開いてしまっているため、とても健康な状態であるとはいえません。多くの歯科医院にとってはそこがゴールになってしまっています。なぜなら、先ほど述べたように歯周ポケットの深さで、治療の結果を評価しているからです。

しかし私たちは、最終的に「口腔内の菌の環境を健康な状態に戻す」というのがゴールであるため、歯周ポケットの深さが絶対的な指標ではありません。そのため「フラップ」は行わず、歯の間に隙間ができるようなこともありません。外科的な処置を行わないので、当然ですが痛みもありません。外科的に切開すれば、目で見ながら処置できるため処置的にはやりやすくなります。一方「トータルヘルスプログラム」では、目に見えない状態に対応するという点で、技術的には大変です。しかしながら「フラップはしない」という点は「トータルヘルスプログラム」の理念でもあるので、そこは譲れません。

「どの歯科医院で処置しても、歯肉が下がってしまうと言われてきたのが、歯肉が下がらない状態で治せる」。そうした点も、トータルヘルスプログラムの患者満足度が高い理由のひとつに挙げられるでしょう。

「トータルヘルスプログラム」の「治療」では、すべてにおいて従来の歯周病治療とまったく異なるアプローチで、大きな成果を上げ続けているのです。

16) 再評価とメンテナンス

- Reassessment & Maintenance -

すべての施術が終了後は、口腔内のリスクが除去されているかどうかチェックするため、再度精密検査（再評価）を行ないます。最初に行った内容と同じ検査をし、歯周病菌の活動がとまり、良好な口腔環境にリセットされているかどうかをチェックします。「ガスクロマトグラフ」と「位相差顕微鏡」等での検査とともに、歯周ポケットの深さも再度確認します。そのとき、最初の検査では存在しなかった菌が新たに見つかる場合もあるので、その場合は追加で処置をし、治療が終了します。

ガスクロマトグラフ検査は、硫化水素、メチルメルカプタン、ジメチルサルファイドの3種類の細菌が発生するガスを測定し、菌活動が低下、停止していることを客観的に確認するために行われます。

その後、完全にリスクをリセットされた健康な口腔の状態を一生涯に渡って保ち続けるため、定期的なメンテナンスに来院いただくことで、いつまでも口腔内の状態を把握し、リスクが拡大することなく、繰り返し虫歯にも歯周病にも罹らない、健康な状態を持続するよう管理を行っていきます。

定期メンテナンスでは、「唾液検査」を年に1回行っています。再度、機能水を使って口腔内をきれいにし、つまり感染しない状況をもう1回作ってあげます。あとは歯面をきれいに整えるのですが、車でいうとポリマーコーティングのようなイメージです。そうすることでツルツルでピカピカの歯になり、舌触りも全然違うので、患者さんもととても喜ばれます。もちろんまったく苦痛をとまなわないので、寝てしまう人もいらっしゃる、「まるでエステ感覚のようだ」とおっしゃる患者さんもいらっしゃいます。

一般的な歯科医院の定期クリーニングだと、来院されたときには歯石がいっぱい付着しているので、超音波でガリガリ洗浄したり、治療なのか予防なのか分からない感じですが、「トータルヘルスプログラム」の場合は細菌レベルでコントロールしているので、歯石はそんなに付着しません。ですから、他の歯科医院で定期的にクリーニングに通っている人たちと、「トータルヘルスプログラム」を受けられた人たちと、口の中の環境がまったく違うのです。

「トータルヘルスプログラム」を受けた後のセルフケア、ホームメンテナンスも、受ける前とは大きく変わってきます。ご本人の歯の健康に対する知識レベルが高くなりますし、また受診後は歯肉の芯から引き締まるので、歯みがきなどのホームケアが以前より楽になります。歯の表面にある細菌をコントロールしていないと、歯垢などネバネバしたものが付着し、歯ブラシで磨いても取れません。ところが菌をコントロールできていれば、軽い

歯みがきでツルツルになってしまうのです。そのため使う歯ブラシにしても、「トータルヘルスプログラム」を受けている人とそうでない人では、おすすめする歯ブラシが、毛先の硬さや形状などがまったく別物です。普通の患者さんが使っても物足りないような歯ブラシでも、「トータルヘルスプログラム」を受けた人であれば十分使用できます。

毛先が硬い歯ブラシでゴリゴリ磨かなければ汚れが取れないという感覚を持っているのが、一般の日本人です。それだと歯肉に傷がついてしまいます。しかし「トータルヘルスプログラム」を受けられた人であれば、もっと細くて布のように柔らかい繊維のもので磨くだけで十分なのです。

17) 「トータルヘルスプログラム」への反響

- Reaction to THP -

「トータルヘルスプログラム」を中心に、治療を受けられた患者さんはみなさん満足していただいています。受診の途中から口の中が明確に良好な状態に変わっていくのが分かるからでしょう。実際「トータルヘルスプログラム」をまだ半分程度しか治療していないタイミングで、口の中がすごく変わったからと、他の患者さんを連れてこられる方もいらっしゃるほどです。

よく言われることは、「朝方や夕方に唾液がネバネバしなくなった」「唾液がさらさらになった」「口臭がなくなった」「歯茎が引き締まり、鏡を見てもいないのに、歯ブラシを当てた感覚が変わった」といった声です。

「トータルヘルスプログラム」を受けることにより、悪い菌がすっかりいなくなります。すると、まず炎症がなくなります。常に灼熱感があるような感覚が消え、患者さんにも変化が明確に分かります。「全身が元気になった」「糖尿病が改善した」「血圧など、あちこち悪かった数値が大幅に改善した」という患者さんも多くいらっしゃいます。

参考までに、「トータルヘルスプログラム」を受けられた患者さんから当院に寄せられた、数々の反響の声の中からいくつかをご紹介します。

●まさか自分の口がこんな状態だとは思ってもみませんでした。私は、歯みがきをしているときに歯ぐきから血がでることが気になって、ホームページで検索して来院しました。たぶん、虫歯のせいかなと思ってお伺いし、お話を聞いてそれが歯周病だということが分かりました。検査の中で、顕微鏡の画像を見せていただいたのですが、その動く物体をみて唖然としました…。自分の口の中に、これほど沢山の細菌が繁殖しているとは夢にも思いませんでした。まだ歯がそろっている今だからこそ対処が必要だということが分かり、「トータルヘルスプログラム」を受診しました。施術はとても快適に終わり、お口の中が本当にサッパリしたことが実感できます。これからは、今の状態を維持するために意識を高めてメンテナンスに取り組みたいと思います。

【20代男性】

●普段、私はお家でしっかりと歯ブラシも欠かさず行っており、歯の健康には自信がありました。ところが、あるとき急に歯がグラグラしてきたように感じ、怖くなってこちらの医院にご相談に伺いました。とくに硬い物を食べたわけでもなく、不思議に思っていたのですが、検査をしてみてビックリしてしまいました。きれいなはずの私の歯に多くの細菌がうごめいていて、それが歯の骨を溶かしているのだということだったからです。私は先日、出産したばかりなのですが、この歯周病は家族から染るのだと教えてもらいました。可愛い我が子に辛い目をさせないためにも、徹底的に歯周病を治したことで、母親としての自覚が芽生えました。

【30代女性】

●子どもも大きくなってようやく手が離れ、友人と食事に出かけられる時間も多くなってきました。旅行や食事会など、楽しいひとときでこれまでのストレスを解消させていました。そこで友人の一人が、とても寂しそうにしているのに気づき、どうしたのか話を聞いてみると、最近、入れ歯にしたのだけれど、何を食べても美味しく感じられず、張り合いがないのだといいます。入れ歯を外すと10歳以上老けてみえるようで、女性としての自信もなくしているようでした。なぜそうなったのかと聞くと、歯周病といわれたということです。私も怖くなり、知人のすすめでこちらに参りました。歯周病とはどのようなものか、分かりやすくご説明してくださり、躊躇することなく「トータルヘルスプログラム」を受診しました。若さを保ち、いつまでもきれいでいたいというのが本音ですが、健康の大切さを身にしみて実感しました。

【40代女性】

●自営業で飲食店を主人とともに営んでいます。まだまだ、子どもが大学受験を控えておりますので、精一杯仕事もしていかなければなりません。職業柄、食べ物のことには色々な本を読んで知識を身につけていたのですが、生活が不規則になりがちで歯のことにはあまり注意を払ってはいませんでした。しかし、この年齢になると徐々に歯もぐらつきはじめ、これまでどうして何もしてこなかったのかととても後悔していました。少しでも今ある歯を残すことができないかと思いつめていたときに、つじむら歯科医院のことを知りました。今考えれば、もっと若いころからしっかりと予防に取り組んでいればと思いますが、これからできることをしっかりすることが自分には大切なことだと思い直し、家族にも歯の大切さを伝えていきたいと思います。

【50代女性】

●息子も大きくなり、結婚して孫が生まれ今は一緒に楽しく過ごしています。テレビで「おじいちゃん、お口臭い」と言われているのを他人事のように見ていましたが、まさか自分が孫に言われるようになるとは夢にも思いませんでした。自分ではなかなか気づかず、なんとかならないかといろいろな医者に相談してみました。原因のひとつに歯周病というものがあるとお伺いし、きちんと治療ができるところがないかと探しており、つじむら歯科医院に辿り着きました。これまでここまでしっかりと検査をしたこともなく、自分のことがどれだけ分かっていなかったかを思い知らされました。しかし、ワラにもすすがる思いで治療をお任せして、改善された結果をみて本当にうれしくなりました。これからは、孫とも自信をもって楽しく遊ぶことができます。ありがとうございました。

【60代男性】

(その他の声)

以前から気になりながら放っておいたのですが、こんな治療ができることはとても新発見でうれしかったです。歯磨きの仕方や歯周病治療に対して意識が高まり、感謝しています。

最初に話を聞いた時は金銭的なこともあり、保険治療で良いと思っていましたが、口の中の菌やカビの画像、口臭検査のデータを見て、根本的に直したいと思いました。主人と二人で高い治療費を使って改善したということが励みになり、今後は絶対に悪くなりたくないと、ブラッシングや生活習慣を気をつけるようになりました。歯のエステサロンに行くつもりで是非体験して欲しいです。

今まで歯石を取ることにしかやったことがなかったのですが、今回 THP を知り、多種にわた

る治療、殺菌をしていただいてこんなにも効果がありキレイになって大変驚きました。本当にやってよかったです。見た目だけでなく、顕微鏡、唾液検査など数値でも結果が出てわかりやすかったです。

治療で歯を磨く回数が多いことや、家でマウスピースをはめる事が大変でしたが、やっていくにつれて出血が止まったり、歯ぐきの腫れが引いたりするのが実感でき、終わった時はとても達成感がありました。

全体的に口の中が軽くなったような気がします。除菌をするとすっきりして人とたくさん話したくなりました。

今までに歯にコンプレックスがあり、歯科に通うのをためらっていたけれど、歯周治療をしていただいて、口の中の清潔感がだんぜん違い、改善され、歯をより大切にしていこうという意識になっています。

歯ぐきの状態が良くなり、出血、腫れ等がなくなりました。長い時間歯磨きをしても治らなかったのも、このプログラムを受けてみてよかったと思います。

歯周病の怖さを知らずに来て、もっと早く治療を受けられたらよかったのにとおもいます。今回治療を受けて本当に良かったです。これ以上歯を失いたくないのでこれからも気をつけたいです。

以下は「トータルヘルスプログラム」を受けられた患者さんに、とくに感じた効果についての「アンケート結果」です。

・膿が出なくなった	81.2%
・唾液のねばつきが無くなった	74.9%
・血が出なくなった	100%
・口臭が減った	81.2%
・唾液がサラサラになった	75%
・冷水痛の軽減	81.2%
・動揺の軽減	87.5%

このように、多くの方々から喜びの声や反響をいただいています。これらの声を大きな

励みとし、「トータルヘルスプログラム」のさらなる認知度向上と、受診者の方々を増やすために、スタッフ一同努力していきたいと考えています。



**トータルヘルスプログラム スターターキット
各ツールの使用説明**

3 THP 3DS ^{ペースト} paste によるブラッシング方法

How to brush with THP 3DS paste

虫歯菌と歯周病菌の原因菌を減らすための治療法です。

磨き方

- ①THP 3DS paste を 1 滴、歯ブラシ（1）につけます。
- ②歯と歯茎の境目に、THP 3DS paste を塗りつけます。
- ③約 2 分間、**上の歯と歯茎の境目**をゆっくりと丁寧に磨いてください。
- ④次に、**下の歯と歯茎の境目**を、同じように約 2 分間、ゆっくりと丁寧に磨いてください。
- ⑤約 10 秒間、だ液と THP 3DS paste をお口の中で混ぜ合わせるように、クチュクチュしてください。
- ⑥だ液を吐き出してください。
- ⑦**舌クリーナー**で、舌の上を磨いてください。
- ⑧最後に約 10 秒間、水でうがいをしてください。

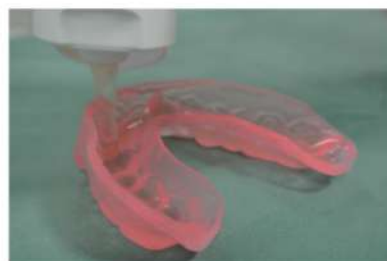
注意事項

- 1) 今までお使いの歯ブラシは廃棄してください。
- 2) THP 3DS paste を使用している間は、他の歯磨き粉を使用しないでください。
- 3) **7 日間は、毎食後、欠かさず磨いてください。**
- 4) 歯と歯の隙間が大きくなったら、歯間ブラシや糸ようじの使用が必要になりますので、使用終了後にご指導致します。
- 5) THP 3DS paste によるブラッシング期間は、7 日間です。
- 6) THP 3DS paste を家族間で共有することはおやめください（菌が相互感染することがあります）。
- 7) 使用中に何か異常を感じたら、直ちに使用を中止し、ご連絡ください。

虫歯菌と歯周病菌の原因菌を減らすための治療法です。
歯周ポケットの奥まで THP 3DS paste が届くように、ご自身のお口にぴったりしたオーダーメイドのトレーを使用します。

使い方

- ①きれいに歯を磨きます。
- ②トレーに THP 3DS paste を適量注入します（入れすぎるとトレーからはみ出します）。
- ③1日1回15分間、上下の歯にトレーを装着します。
- ④外した後は、しっかりお口をすすぎます。
- ⑤トレーの THP 3DS paste を水で洗い流したあと、トレーを乾燥させ、ケースで保管してください。
- ⑥1週間のうちに一度、6時間程度装着することが望ましいです。



注意事項

- 1) 3DS トレーの使用期間は2週間です。
- 2) トレーを熱湯消毒することは絶対にしないでください。
- 3) 使用中に異常を感じたら、直ちに使用を中止し、ご連絡ください。

トータルヘルスプログラム、及びメンテナンスで使用するもので、医院へお越しの際は、必ず 3DS トレーをお持ちください。

5 スターターキットに入っている各ツール説明書

Instructions for Starter Kit

1) THP 3DS paste

組成、性状

原材料組成	リゾックス（卵白、キトサン）、カプリン酸、水、グリセリン、ヒドロキシエチルセルロース、PEG-50 水添ヒマシ油、ヒアルロン酸 Na、PEG-60 水添ヒマシ油
抗菌活性	適用後 24 時間経過しても、有害細菌の増殖を抑制する
内容量	50g
製品の性状	茶褐色透明ペースト状
原産国	日本

使用方法

1. マウスピースの内面に、溝に対して均一に塗布します。
2. 装着し、15 分程度放置します。
3. 水で口をすすぎ、ペーストを洗い流します。



写真はイメージです
塗布する量は、担当
の歯科衛生士の指示
に従ってください

安全性

1. 主成分（開発コード：リゾックス）は食経験が豊かな食品から構成されており、LD 50 値は 5,000mg/kg 以上であり、非常に高い安全性を有している。その他の成分に関しても、口腔化粧品として使用されている成分であり高い安全性を有する。
2. アレルゲン性がないことを確認済みです。

使用上の注意

1. 開封後は速やかに使いきって下さい。
2. 使用期限内に使うようにして下さい。

特許関係

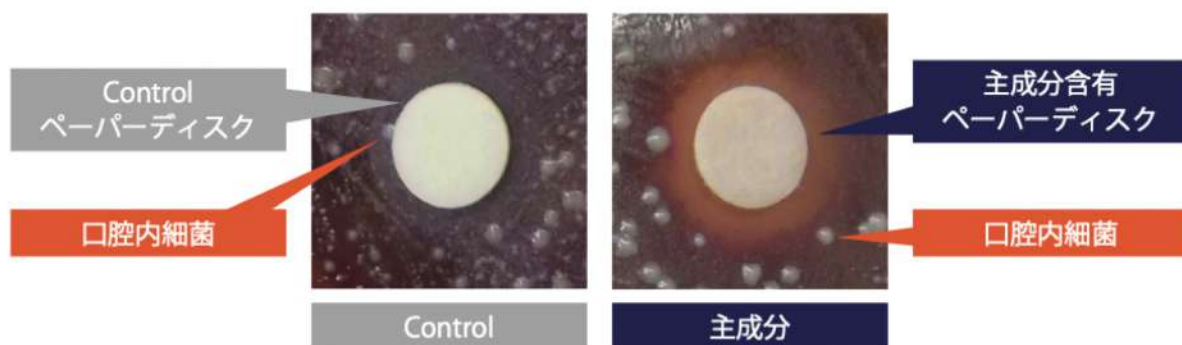
1. 特願 2016-022099 抗菌性組成物（出願中）
2. 特願 2015-171397 抗真菌活性を有する組成物（出願中）
3. 特願 2016-123514 抗菌性組成物及びその製造方法（出願中）

主要知見

本製品は医薬品ではないため本項に記す内容は薬効薬理とは異なる。
本欄ではこれまでに確認された試験の知見を要約する。

1. THP 3DS paste の主成分の働きにより、口腔細菌に対して高い抗菌効果が認められている。①②
2. 主成分は、山口大学農学部的基础技術を基に開発された、これまでにない抗菌天然化合物素材である。
3. 主成分は、帝京大学医真菌研究センターとの共同研究により、カプリン酸との併用でカンジダやマラセチアなどの真菌類に対し高い抗菌性能を有することが証明された。③④
4. 主成分は、東京医科歯科大学呼吸器内科との共同研究により有害な感染菌である MRSA や緑膿菌に対しても効果があることが証明された。⑤

①口腔内細菌に対する主成分の抗菌効果比較（忌避試験）



口腔内細菌に対する明確な阻止円が観察された

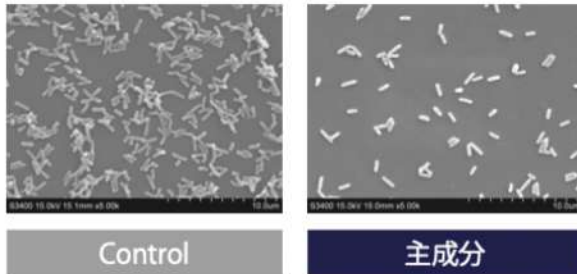


※ リゾホーム

THP 3DS paste の有効成分を配合したホームケア専用ジェルです。
(スターターキットのセット内容により、付属していない場合があります。)

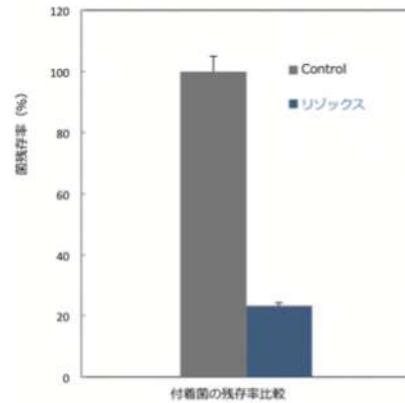
②主成分による付着菌（緑膿菌）の洗浄効果

菌付着面の走査電子顕微鏡写真



主成分処理により付着菌の残存率低下がみられ
主成分特有の洗浄効果が示唆された

付着菌の残存率比較



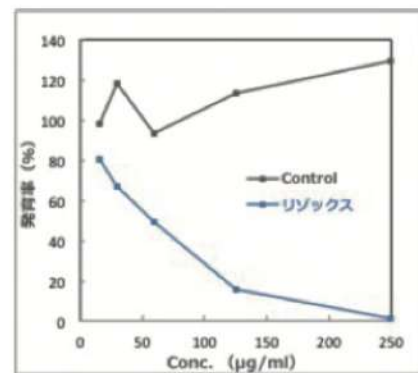
③カンジダに対する抗真菌活性

菌糸の顕微鏡観察



主成分は濃度依存的にカンジダの菌糸形発育を
抑制する（特許出願中）

主成分濃度依存的菌糸形発育の阻害



④マウス口腔カンジダ症に対する効果



Control

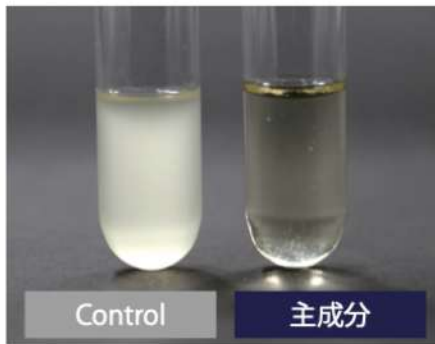


主成分

主成分投与群では
カンジダの菌糸形発育が抑制された

⑤MRSA・緑膿菌に対する抗菌効果

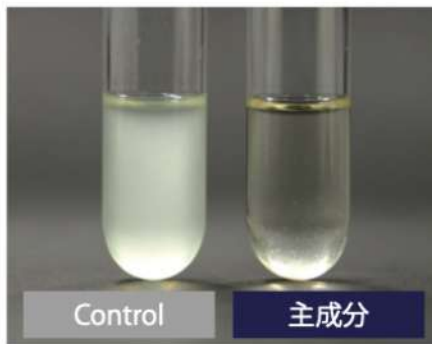
MRSA への抗菌効果



Control

主成分

緑膿菌への抗菌効果



Control

主成分

緑膿菌に対し、主成分は高い抗菌性を有する
東京医科歯科大学呼吸器内科との共同研究（特許出願中）

2) 乳酸菌モコモコ

Lactobacillus mokomoko

組成、性状

原材料組成	イソマルトオリゴ糖（国内製造）、グァーガム酵素分解物、乳酸菌生産物質粉末（大豆、乳酸菌）（大豆を含む）、HPMC、ステアリン酸カルシウム
その他有効成分量 （1カプセルあたり）	イソマルトオリゴ糖 144.099 mg グァーガム酵素分解物 127.233 mg 乳酸菌生産物質粉末 16.668 mg
内容量	33.18g（0.395g×84カプセル）
製品の性状	ハードカプセルタイプ
原産国	日本

摂取方法

1日12カプセルを目安に、3回程度に分け、水などと一緒に摂取して下さい。

注意点

1. 水分の付着が変色等の原因となるため、濡れた手等で触れたカプセルは容器に戻さないようにして下さい。
2. 原材料を確認し、食物アレルギーのある場合、薬を服用中の場合は、医師と相談の上、摂取するようにして下さい。
3. 使用後はチャックをしっかりと閉めて下さい。

保存方法

高温多湿および直射日光を避け、涼しい所に保存して下さい。

賞味期限

製造後2年間（袋の下部に記載）。

Q この乳酸菌モコモコのサプリメントの成分は何ですか？

A このサプリメントは食物繊維であるグアガムとイソマルトオリゴ糖、腸内細菌にダイレクト働く乳酸菌生産物質（バイオジェニクス）で構成されています。生体にとって、天然成分のため安全性が非常に高く、ご安心してご使用いただけます。

Q プレバイオティクスとは何ですか？

A プロバイオティクスとプレバイオティクス、名称が似ていますが、プロバイオティクスは元々ヒトの中に存在している、生体に良い働きをする菌と定義されています。それに対しプレバイオティクスはプロバイオティクスの働きを高める（簡単に言うと食事）栄養源のことを言います。善玉菌であるプロバイオティクスは腸で増産されるため、プレバイオティクスは胃で全て消化されずに腸まで成分が届く必要がありますので、食物繊維やオリゴ糖を主成分としています。

Q サプリメントを飲み忘れてしまいました。1日分を一気に全部飲んでもいいのでしょうか？

A サプリメントは規則正しく飲むことをお勧めします、飲み忘れたときは、次回の食事前に決められた4粒を目安にご使用ください。

Q 子供にサプリメントを飲ませたいのですが大丈夫でしょうか？

また、その場合は量はどうしたらいいですか？

A お召し上がりいただく量に関しては、お子様の体重を目安にしてください。当社のサプリメントは体重 60 kgの方を基準に設計しているため、1日 12 粒飲むサプリメントを体重 20 kgのお子様ที่飲む場合、3分の1の量となりますので、1日 4 粒が目安です。



Q サプリメントを飲む最良のタイミングは食前・食中・食後どこになりますか？

A 一般的なサプリメントで脂溶性の栄養素は、脂質が多く含まれる食後（昼食や夕食後）の利用が一般的ですが、このプレバイオティクス機能を持ったサプリメントは、主成分が食物繊維のため、食前の使用をお勧めします。（食後でも問題ないです）食前をお勧めする理由は、食事のはじめに野菜から食べた方が吸収消化のために良いというのと同じ理由です。肥満防止効果も期待できます。

Q サプリメントを飲むようになったら便がゆるくなりましたが、問題ありませんか？

A これは、体の好反応とお考えください、腸内フローラ（腸内細菌）の活動が悪く、便秘がちな人によく現れる初期反応で、プレバイオティクスの効果により腸の活動が活発になり、グルグル動く感じや、ゴロゴロする感じ、という活動反応を感じられる方が多くいらっしゃいます。あまり気になる様であれば使用量を一回4粒から2粒に減らして、馴染んできたら4粒に戻していくなど調整されてみてください。

Q サプリメントは何で飲めばいいのですか？

A 水やぬるま湯でお召し上がりください。しかし、サプリメントをお茶やコーヒー、牛乳等でお召し上がりいただいている方もいらっしゃいます。必要以上に気にすることはありませんが、飲み物の中には栄養素の吸収を阻害してしまうものもあるため、水やぬるま湯でお召し上がりいただくことをお勧めします。また、水も、ビタミンを破壊してしまうと言われる「塩素」の含まれる水道水よりも、ミネラルウォーターや浄水器を通した水がお勧めです。

**Q 色々な種類のサプリメントを混ぜて飲んでも大丈夫でしょうか？
また、過剰摂取に気を付けた方がいいものはありますか？**

A お薬を飲まれていない方や食物アレルギーがない場合には、基本的には色々な種類のサプリメントをお召し上がりいただいても大丈夫だと思われます。ただし、栄養素によっては過剰摂取が心配になる場合もあります。もし、たくさんの種類のサプリメントを飲まれていて過剰摂取が気になる場合には、かかりつけの医師や薬剤師までお問い合わせください。

Q カプセルタイプのサプリメントは、カプセルから出して飲んでも大丈夫ですか？

A カプセルから出してお召し上がり頂いても大丈夫です。実際、オブラートに包んだり、水に溶かしてお召し上がりいただいている方もいらっしゃいます。

※サプリメントの原材料は、苦かったり、すっぱかったりしますので、できればカプセルのままお召し上がりいただくことをお勧めしています。

注意事項など

- 水分の付着が変色等の原因となりますので、ぬれた手等で触れたカプセルは袋に戻さないでください。
- 原材料をご確認いただき、食物アレルギーのある方、薬を服用中の方や通院中の方は、お医者様とご相談の上、お召し上がりください。
- 開封後はお早めにお召し上がりください。
- 乳幼児の手の届かない所に保管してください。
- 使用後はチャックをしっかりしめてください。
- 本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。
- 1日の摂取目安量を守ってください。
- 本品は、特定保健用食品と異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。
- 食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。食物繊維の過剰摂取は、下痢を起こす原因になります。また、体内に必要な微量栄養素(ミネラルなど)が水分と共に排出されてしまう恐れもあるからです。サプリメントなどから摂取する場合、簡単に摂取量を増やすことが可能であるため、とりすぎには十分に注意が必要です。商品に書かれている用法・用量をきちんと守って、過剰摂取による健康被害を防ぐように気をつけましょう。体調の変化(お腹がゆるくなる、下痢など)を感じた方は摂取量を減らす、期間を空けるなど体調に合わせて調整をしましょう。



6 最後に 私たちの目標は「治療ゼロの歯科医院」

Ending Our target "Non-Treatment Dental clinic"

人は0歳、生まれたときから「口腔ケア」「予防」をきちんとしていくべきです。近年、乳幼児や子どもの口腔内のケアに対するお母さんの方の意識も高まってきています。基本的に生まれて間もない赤ちゃんの口の中に虫歯菌はありません。「ミュータンス菌フリー」というお子さんを増やしていくことが、これからの日本の歯科医療にとって、最も重要な課題になっていくでしょう。また、「プロバイオティクス」などを使って、子どもの頃から悪い菌が口腔内、体内に繁殖できない状況にしておくということも大事です。そうやって最初からクリアしてしまえば、一生、お子さんが虫歯や歯周病になることはないのです。

かといって、菌に対して過度に過敏になってしまう必要はありません。先に述べたように、人間は何十億という菌とともに暮らしています。子どもは、泥んこ遊びや砂場遊びを通してたくさんの菌と交わりながら成長していきます。要は「菌＝悪」ととらえるのではなく、いかに「菌と共存していくか」「菌をコントロールしていくか」です。

口腔ケアに関しても、赤ちゃんの時から親御さんが責任をもって管理、コントロールしてあげれば、お子さんの口腔内の健康における菌のリスクを下げるができます。また、お母さんだけでなく、家族全員が一緒になって歯の健康に関わっていくことが大事です。とにかく、まずはご自身の口腔ケアからはじめましょう。ご自身の口の中を健康に保つことが、赤ちゃんの健康、子どもの健康につながるのです。

口は人間の健康、命を支える入り口であり源です。人の口腔の健康が実現されたとき、人間にとって真の健康が実現し、また全ての人の健康が実現したとき、本当に豊かで幸福な社会が実現するはずです。

日本の医療は今、「疾病医療」が中心になってしまっています。とりあえず悪いところを治す、という医療です。そんな中、日本の歯科医師、医療従事者の「治す技術」は非常に高いのですが、根本となる疾患を調べる技術やスキルの向上に力が注がれていません。しかし、真の医療とは「応急処置」ではなく「病気の根源を止める」ことであり、我々医療従事者は、それを最終ゴールとして医療にあたるべきです。それが私の信念です。

これから日本の歯科医療を、日本の未来を担っていく次世代の歯科医師、歯科医療従事者のみなさんには、しっかりと検査、診査・診断をして、疾患の根底を食い止めることを根本に考えながら医療にあたってほしいと切に願っています。また、そうした理念を持った歯科医院が増えていかなければ、歯科医療の未来は非常に危ういと思います。

「口腔の健康から全身の健康へ」を基本理念に、これからも私たちトータルヘルスプログラムを施すグループは、治療しなくていい歯科医院、「治療ゼロの歯科医療」をめざして進んでいくつもりです。

6 最後に 私たちの目標は「治療ゼロの歯科医院」

Ending Our target "Non-Treatment Dental clinic"

人は0歳、生まれたときから「口腔ケア」「予防」をきちんとしていくべきです。近年、乳幼児や子どもの口腔内のケアに対するお母さんの方の意識も高まってきています。基本的に生まれて間もない赤ちゃんの口の中に虫歯菌はありません。「ミュータンス菌フリー」というお子さんを増やしていくことが、これからの日本の歯科医療にとって、最も重要な課題になっていくでしょう。また、「プロバイオティクス」などを使って、子どもの頃から悪い菌が口腔内、体内に繁殖できない状況にしておくということも大事です。そうやって最初からクリアしてしまえば、一生、お子さんが虫歯や歯周病になることはないのです。

かといって、菌に対して過度に過敏になってしまう必要はありません。先に述べたように、人間は何十億という菌とともに暮らしています。子どもは、泥んこ遊びや砂場遊びを通してたくさんの菌と交わりながら成長していきます。要は「菌＝悪」ととらえるのではなく、いかに「菌と共存していくか」「菌をコントロールしていくか」です。

口腔ケアに関しても、赤ちゃんの時から親御さんが責任をもって管理、コントロールしてあげれば、お子さんの口腔内の健康における菌のリスクを下げるすることができます。また、お母さんだけでなく、家族全員が一緒になって歯の健康に関わっていくことが大事です。とにかく、まずはご自身の口腔ケアからはじめましょう。ご自身の口の中を健康に保つことが、赤ちゃんの健康、子どもの健康につながるのです。

口は人間の健康、命を支える入り口であり源です。人の口腔の健康が実現されたとき、人間にとって真の健康が実現し、また全ての人の健康が実現したとき、本当に豊かで幸福な社会が実現するはずです。

日本の医療は今、「疾病医療」が中心になってしまっています。とりあえず悪いところを治す、という医療です。そんな中、日本の歯科医師、医療従事者の「治す技術」は非常に高いのですが、根本となる疾患を調べる技術やスキルの向上に力が注がれていません。しかし、真の医療とは「応急処置」ではなく「病気の根源を止める」ことであり、我々医療従事者は、それを最終ゴールとして医療にあたるべきです。それが私の信念です。

これから日本の歯科医療を、日本の未来を担っていく次世代の歯科医師、歯科医療従事者のみなさんには、しっかりと検査、診査・診断をして、疾患の根底を食い止めることを根本に考えながら医療にあたってほしいと切に願っています。また、そうした理念を持った歯科医院が増えていかなければ、歯科医療の未来は非常に危ういと思います。

「口腔の健康から全身の健康へ」を基本理念に、これからも私たちトータルヘルスプログラムを施すグループは、治療しなくていい歯科医院、「治療ゼロの歯科医療」をめざして進んでいくつもりです。

TOTAL HEALTH PROGRAM



湘南メディカルパートナー
Shonan Medical Partner



歯ブラシ等のご用命はこのQRコードからお気軽に

神奈川県伊勢原市小稲葉 2886-1 TEL:0463-71-5071 FAX:0463-26-7471